

清澄寺の日蓮上人銅像——山上奉安の概況——千葉県下の一大偉観——

建長五年四月二十八日、日蓮上人が清澄寺境内東南の一角に於て妙法の第一声を発して以来、房州の清澄寺は上人出家得度の霊場・法華発展の霊域として日蓮四大霊場の随一と云われ、徳川時代の盛時は云うに及ばず現任職玉瀧義秀僧正の代に至つて更に面目を一新し、大客殿の新築既に成り、茲に日蓮宗前管長河合日辰大僧正老躰を提げて日蓮大銅像建設を発願し、朝野の名士篤信の檀信徒之れに加わり玉瀧僧正過去二ヶ年に渉る活動となり其間一部偏狭なる妨害者現はれしも萬難を排して遂に去る八月三十日午後三時境内旭の森の山頂に日蓮上人の大銅像を建設するに至つた

奉安の概況

現代鑄造界の泰斗、須田町廣瀬中佐銅像、明治大帝尊像製作者として有名なる渡辺長男ながお氏の手により一世一代の力作と称せられし日蓮聖人の銅像は海路東京より房州天津に安着し、同町日澄寺境内に仮安置し檀信徒日夜参集して守護に努め其間諸般の準備を整え了るや、八月二十八日河合大僧正は多くの檀信徒に守られて京都より天津に出向同地にて清澄寺山主玉瀧僧正、房州日蓮宗録司本庄瑞量師及日澄寺住職諸師と共に大約の打ち合わせをなし、翌八月二十九日午前四時日澄寺にて一座の法要終ると共に妙法の声太鼓に送られて重量五百貫の大銅像は徐々として清澄寺に向い壱里二十余丁の曲折せる山路も午后二時には早くも一千五百尺の高所清澄寺境内に到着したり、旭の森山頂に引き上げは明朝之れを行う事とし天津町長辰野利三郎氏一同に挨拶し、河合大僧正は一山の僧侶と共に客殿に休息せらる。山腹まで出迎えたる清澄青年団は多大の労力奉仕をなし且明朝まで銅像守護の任に当りたり。河合大僧正は午後七時玉瀧僧正と共に本堂に於て大法要をなし終つて檀信徒に対して一場の法話を試みらる、感動頗る大なり。翌三十日早天一同は旭の森山頂に旭光を拝し直ちに引き上げに着手し午後三時萬歳の声と妙法の声鼓裡

に大銅像は旭の森山頂所定の地に屹然東海に面して立つ、往年の偉傑日蓮上人を目のあたり見るが如し、檀信徒躍歡喜して感涙にむせび遂に一語をも発する能はず、満山寂として只一大偉僧の東海を望んで屹立するを見るのみ。誠に之れ天下の偉観にして千葉県亦ここに一異彩を加わえたりと云うべし

銅像について

此の銅像は前記の如く斯界の巨匠たる渡辺長男ながお氏が苦心慘憺あらゆる材料総ての記録を参考として謹製したるものにして其容貌の如き実に往時の傑僧日蓮を偲ばしむるに足り袈裟衣数珠より草履の末に到るまで一々精細確實なる歴史的考證の結果に成れるものにして身長一丈、台座は自然美を損ぜざる様伊豆石を以つて囲み四辺の風光と相俟つて倍々其壮大なるを發揮せり、蓋し全国に於ける上人銅像中一頭地を貫けるもの日本銅像中の大傑作と称するも過賞には非ざるべし。茲に至るまでの河合大僧正の努力殊に山主玉瀧僧正の苦辛は多大のものにして漸く今日酬いられたるもの全国信徒の信仰の対象として最も傑出せるものと云うべきなり

開眼供養式挙行

山頂に奉安を終了したるにより近日發起人協議を遂げ吉日を卜して盛大なる開眼供養式を挙行する由にて当日は朝野名士發起人を始め日蓮宗全国寺院信徒各地より蟻集する筈なれば其盛観は蓋く本県に於ては空前のものたるべく目下着々其準備中なりと云う



旭が森日蓮聖人御尊像の搬入